

いくつになっても、人とつながり活躍したい♪

豊かな気持ちで、幸せになりたいのは、年齢に関係なく誰もが抱く気持ちです。子育てが終わったり、仕事を辞めたりした後も、生きがいを持って暮らしたいと思いませんか？誰もが安心して暮らせる社会をどう実現していくのか。身近な地域で安心して生活できる社会づくりや居場所づくりについて、高齢者の活動を通して考えてみませんか？

津ことぶき楽団グリーン♪

市内の高齢者メンバーで音楽活動を続ける「ことぶき楽団グリーン」。63歳から79歳までの21人が、中央公民館で市民音楽祭や公民館などの発表会、老人ホームなどへの慰問に向け、毎月、練習を積んでいます。メンバーの中には退職後に楽器を始めた初心者も多くいます。

「音楽経験者しか入れない雰囲気ではなく、みんな楽しくやる。大きな目標の一つは『健康』です。日を決めてそこに集う、それが大切なんです」と、団長の川崎さん。練習でも笑い声が絶えずとても楽しそうで、演奏で失敗しても「ごめんごめん」と言いながら温かい雰囲気練習が進んでいきます。

楽団員の一人、森さんにとっては、この活動



が仕事などの現役生活を終えた後の人生の大きな生きがいになっているようで、「仲間と一緒に練習し、笑い合うことは

どんな薬にも勝ります。今年つれあいをなくし、一人で生活している私にとっては、この活動は、まさに『人』という漢字のように支えになっています」と言います。

大正琴を担当する皆さんは「同じ楽器のメンバーとは車に乗り合わせて来たり、ご飯を食べに行ったりと、この集まりがきっかけでいつも行動を一緒にするようになりました」と話してくれました。

老人ホームへの慰問では、懐メロを中心に演奏し、演奏者、参加者が昔を懐かしんで、一緒

に演奏を楽しむ姿があります。楽団の演奏に合わせて、歌を歌ったホームの参加者は、「80歳になって初めて生演奏で歌った」と感動した様子でした。



昨年度は、津の市民歌「このまちが好きさ」を楽団が演奏し、津児童少年楽団が歌って共演し、「おじいちゃん・おばあちゃんと孫」といった世代間の交流も行われました。

顧問の川村さんは「1人で家で演奏するときと、仲間と演奏するときでは、音が違うんです。つまり、個々の楽器の音もみんな演奏するときには出せない音があるんです」と言います。

楽団は今年で創立41年になります。地区行事やお祭り、ダンスパーティーなどから依頼を受け演奏を行っている今では、公演ごとに来てくれている「隠れファン」もできたそうです。いろいろな地域の皆さんが集まって、高齢者が生き生きと活動できる居場所の一つとなっています。

